

**製品名: hnRNP A2/B1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12137**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36+38kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HNRNPA2B1
別名	HNRNPA2B1; HNRPA2B1; Heterogeneous nuclear ribonucleoproteins A2/B1; hnRNP A2/B1
遺伝子 ID	3181.0
SwissProt ID	P22626
免疫原	抗血清はヒト hnRNP A2/B1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

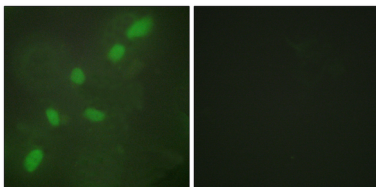
**背景**

この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) の A/B サブファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タンパク質であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA

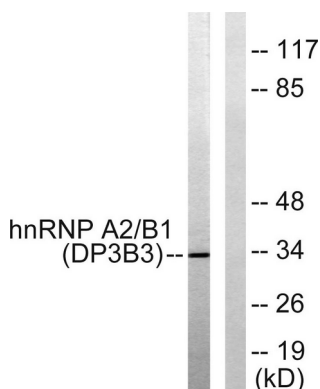
のプロセッシングや mRNA 代謝・輸送のその他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RNA に結合する準 RRM ドメインの 2 つの繰り返し配列を有しています。この遺伝子は、異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションを生成することが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: pre-mRNA のプロセッシングに関与。核内で少なくとも 20 種類の hnRNP および異種の核 RNA と複合体 (リボヌクレオソーム) を形成する。類似性: 2 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。細胞内局在: リボヌクレオソームの構成要素。主に核質に分布するが、アイソフォーム A2 は一部の組織の細胞質にも存在する。核小体には見られない。サブユニット: スプライソソーム C 複合体に同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRNPA1、HNRNPA2B1、HNRPA3、HNRNPC、HNRPF、HNRPH1、HNRPK、HNRPM、HNRNPR、HNRNPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B で構成される。PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22、RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、および ZCCHC8。

## 研究分野

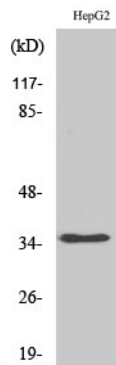
## 画像データ



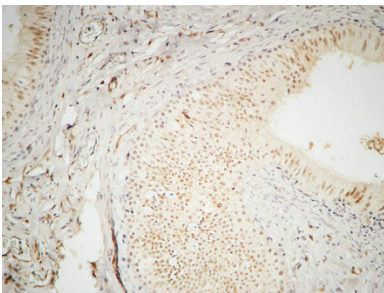
hnRNP A2/B1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



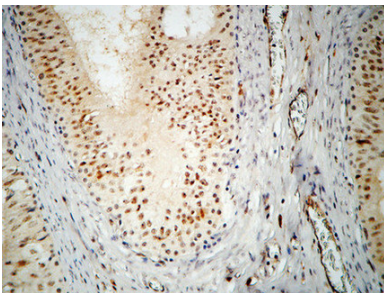
hnRNP A2/B1 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



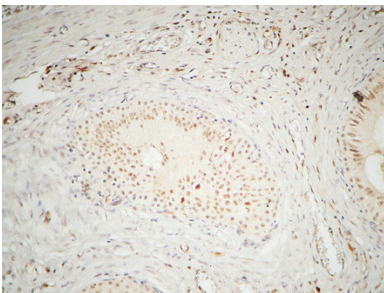
hnRNP A2/B1 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。